ペガサス雪辱

滋賀下し1勝1敗

BCL・プレーオフ決勝R第2戦

【滋賀＝越谷奈都美】野球の独立リーグ、ルートインBCリーグのプレーオフ決勝ラウンド（3戦先勝）第2戦は27日、滋賀県彦根市のオセアンBCスタジアム彦根で行われ、東地区の群馬ダイヤモンドペガサスは西地区のオセアン滋賀ブラックスに9―6で勝利し、対戦成績を1勝1敗とした。次戦は10月1日午後1時から、ホームの高崎城南球場で戦う。

群馬―滋賀プレーオフ（27日・13時、オセアンBCスタジアム彦根、107人）
▽決勝第2戦（1勝1敗）

群馬ダイヤモンドペガサス（中地区）	0	0	2	5	0	1	0	1	0	9
オセアン滋賀ブラックス（西地区）	0	0	1	0	0	4	0	1	0	6

▽勝　井口　▽S　田代
▽敗　吉村
▽本塁打　鹿沼③（群）小笠原①、太田③（以上滋）

⚾…群馬が15安打9得点で打ち勝った。三回に有間の左中間二塁打と鹿沼の四球で1死一、二塁の好機をつくると、3番速水の適時二塁打で先制。四回は鹿沼の3ランを含む6安打を集めて一挙5得点した。

先発井口は六回2死後に2本塁打を浴びて降板したが、その後は4投手の継投で逃げ切った。

滋賀―群馬ダイヤモンドペガサス　4回表群馬1死一、二塁　右翼席に3ランを放って本塁にかえった鹿沼(34)を迎える選手たち＝オセアンBCスタジアム彦根

強力打線が本領発揮

強力打線が本領を発揮した。群馬ダイヤモンドペガサスは完封負けを喫した前日26日の初戦から一転、第2戦では長打6本を含む15安打で快勝。リーグ最多勝の滋賀の吉村大佑を5回でマウンドから引きずり降ろした。

吉村は下手投げ右腕。地面に近い位置から浮き上がるようなボールを投げつつ、低めに集める制球力もある。初対戦のペガサスには分が悪い可能性もあったが、1番有間裕亮（前橋工高出身）が重い空気を振り払った。

初回の有間は「相手に合わせすぎて自分のスイングができなくなるのが一番良くない」とストライクゾーンの球は全て振る覚悟で打席に立った。1ボール後の2球目を捉えると、フェンス直撃の右中間二塁打を放った。

得点にはつながらなかったものの、四回に3ランを放った2番鹿沼柊汰（前橋商高出身）は「初回にどかんと打ってくれたから『いけるぞ』という雰囲気になった」と感謝した。

以降は各々が対策を立てて吉村を攻略した。3番速水隆成（桐生第一高出身）は凡退した初回の打席を「詰まらされていた」と分析。三回はホームベースから離れた位置に立つことでスムーズにバットが出るようになり、先制の適時二塁打を放った。初回から2打席凡退の5番中道大波は「ぽんぽん投げ込まれて相手ペースになっていた」と反省。四回はノーステップに切り替えて間をつくらず、左前打を放った。

牧野塁監督は「苦戦が予想された投手を早い段階で攻略できたことは大きい」と納得の表情。勝負を1勝1敗の五分に戻し、ナインは地元ファンの待つホームに戻る。

【群　馬】		打	安	点
⑧	有間	6	3	1
⑦	鹿沼	3	2	3
7	霜田	1	0	0
②	速水	5	1	1
DH	井野口	4	2	1
④	中道	5	3	2
⑤	茨木	4	2	0
③	工藤	5	0	0
⑨	高山	4	2	0
⑥	高橋誠	4	0	0
H	奥村	1	0	0
6	湯浅	0	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点
0	0	1	0	11	42	15	8

【滋　賀】		打	安	点
⑧	池田	3	0	0
④	楠本	4	0	0
⑨	松田	4	1	0
DH	小笠原	4	2	2
⑥7	小原	2	0	0
③	片山	3	1	0
②	太田	3	1	3
⑤	菅野	4	1	0
⑦	伊藤	1	0	0
6	島田	1	0	0
H	辻	1	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点
1	1	2	1	5	30	6	5

投手	回	打	安	責
井口	5⅔	25	5	5
宮下	⅓	1	0	0
荻野	1	3	0	0
森	1	6	1	0
田代	1	3	0	0
吉村	5	27	10	4
古屋	⅓	2	1	1
深津	⅔	4	2	0
荒川	3	14	2	1

▷二塁打　有間2、速水、井野口、中道、松田▷試合時間　3時間25分

BCL ペガサス通信

園田と選手契約

野球の独立リーグ、ルートインBCリーグの群馬ダイヤモンドペガサスは27日までに、練習生の園田彪投手(21)と選手契約を結んだと発表した。

滋賀県出身の園田はBCリーグ福井を経て今季からペガサスでプレー。2日に練習生となっていたが、再び選手契約を結び、26日のプレーオフ決勝ラウンド第1戦に出場。六回に登板し、無安打無失点に抑えた。

併せて、西浜勇星投手（18、関学附高出身）を練習生に契約変更することも発表された。

県勢は高校2人 大学3人が提出

プロ野球志望届締め切り

日本高野連と全日本大学野球連盟は27日、プロ入りを希望する選手に義務づけた「プロ野球志望届」の提出を締め切り、午後5時時点で298人（高校159人、大学139人）が届け出た。10月11日のプロ野球ドラフト会議で指名対象となる。

本県関係は、高校が篠原正紀投手（関学附）と大沢駿斗内野手（伊勢崎清明）の2人。大学は、前橋育英高で甲子園に出場した皆川喬涼投手（中大）と丸山和郁外野手（明大）、今春の全日本大学選手権4強に貢献したブライト健太外野手（上武大）の3人が提出した。

高校生の投手では、選抜大会に出場した市和歌山の小園健太は、最速152㌔の快速球と切れ味抜群の変化球が持ち味。157㌔を誇るノースアジア大明桜（秋田）の風間球打も1位指名が有力だ。東海大相模（神奈川）の左腕石田隼都は、優勝した選抜大会で29回⅓を無失点。中京大中京（愛知）の畔柳亨丞も力強い速球が武器。高知の森木大智は甲子園出場はないものの150㌔超の直球で勝負する。

野手は全体的に小粒だ。夏の甲子園で2本塁打を放った智弁学園（奈良）の前川右京は左の長距離砲。京都国際の中川勇斗は長打力のある捕手で4強入りに貢献した。

大学は球速150㌔以上の左投手がそろった。山下輝（法大）は身長188㌢、体重100㌔と大型で球に切れがある。佐藤隼輔（筑波大）は2年時に日米大学選手権出場。今年の全日本大学選手権で活躍した黒原拓未（関学大）、隅田知一郎（西日本工大）も指名を待つ。

右投手では球速154㌔をマークした椋木蓮（東北福祉大）、三浦銀二（法大）が注目の存在。野手では、長距離打者の正木智也（慶大）の評価が高い。

日本選手権は来年6月前半

陸連理事会

日本陸連は27日、オンラインで理事会を開いて2022年度の主要大会の日程を承認し、日本選手権は6月9〜12日、日本選手権1万㍍は5月7日に決まった。いずれも会場は調整中。日本選手権混成競技は6月4、5日に秋田県営陸上競技場で行われる。

また麻場一徳強化委員長を筆頭とする強化体制を解散し、新体制を今後1カ月程度で発足させる方針を発表。理事会で東京五輪の総括報告を行った麻場委員長は記者会見で「五輪が開催され、選手たちがパフォーマンスを発揮する機会が設けられたことが一番よかった。みなさんに尽力いただいた結果。感謝申し上げたい」と述べた。

日本陸連が27日に承認した2022年度の主な大会日程は次の通り。（※は開催地調整中）

【4月】選抜中・長距離大会（9日・熊本）▽日本選手権35㌔競歩（17日・石川県輪島）▽織田記念国際（29日・広島）【5月】静岡国際（3日・静岡）▽ゴールデンゲームズinのべおか（4日・宮崎県延岡）▽水戸招待（5日・水戸）▽日本選手権1万㍍（7日・※）▽ゴールデングランプリ（8日・※）【6月】日本選手権混成競技（4、5日・秋田）▽日本選手権、U20日本選手権（9〜12日・※）【8月】布勢スプリント（28日・鳥取）【10月】東京レガシーハーフマラソン（16日・東京）【12月】全国中学校駅伝（18日・滋賀）【2023年1月】全国都道府県対抗女子駅伝（15日・京都）▽全国都道府県対抗男子駅伝（22日・広島）【2月】日本室内選手権（4、5日・大阪）▽日本選手権20㌔競歩（19日・神戸）【3月】全日本競歩能美大会（19日・石川県能美）

ロードレース新組織を設置

陸連、瀬古氏リーダーに

日本陸連は27日、マラソンなどロードレースの活性化を図る「ロードランニングコミッション」を設け、瀬古利彦副会長がリーダーに就くと発表した。同日の理事会で承認した。メンバーは今後、選定する。

日本陸連は申請のあったマラソン大会を「ジャパンマラソンチャンピオンシップ」（JMC）シリーズの枠組みに入れ、選手の記録と順位を得点化。国際大会の代表選考などに活用する。新組織はJMCシリーズ加盟の要件設定や審査などを通じて、大会の盛り上がりや価値向上を目指す。

中垣内氏が堺の部長復帰

バレー男子日本代表監督

今月末でバレーボール男子日本代表監督を退任する中垣内祐一氏(53)がVリーグ男子1部の堺の部長に10月1日付で就任することになった。27日に堺が発表した。2016〜17年シーズン以来の同職復帰となる。堺を通じて「これまでのさまざまな経験を基に、古豪ブレイザーズ復活の一助となるべく業務にまい進したい」とコメントした。

17年に代表監督に就任。今夏の東京五輪では日本を29年ぶりの8強入りへ導いた。今月に行われたアジア選手権では準優勝。同大会後に退任の意向を明かしていた。

中垣内氏は福井・藤島高から筑波大を経て強豪の新日鉄（現堺）入り。代表エースとしても活躍して1992年バルセロナ五輪に出場した。

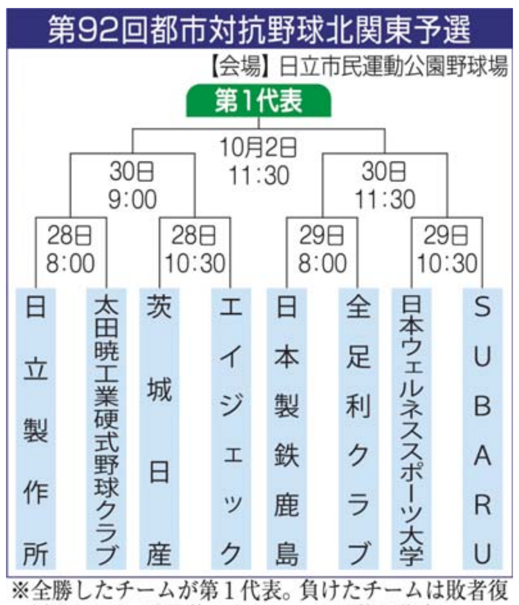
きょうから都市対抗野球北関東2次予選

スバル つかめ

3年ぶり 本戦

社会人野球の都市対抗大会北関東2次予選が28日、茨城県の日立市民運動公園野球場で開幕し、本県から3年ぶりの本戦切符を目指すSUBARU（スバル、太田市）と、太田暁工業硬式野球クラブ（同市）が出場する。

8チームがトーナメント形式で、代表の2枠を争う。初戦は太田暁工業硬式野球クラブが28日に日立製作所（日立市）と、スバルは29日に日本ウエルネススポーツ大（茨城・利根町）とそれぞれ対戦する。（丸山朱理）



※全勝したチームが第1代表。負けたチームは敗者復活戦に回り、勝ち抜いた1チームが第2代表

3年ぶりの本戦出場に向け打撃でけん引する2年目の山田＝太田市運動公園野球場

安定した投手陣 打線は若手飛躍

スバルは今季、けがのためリハビリに専念していた阿部博光投手、山田知輝外野手（桐生第一高出身）がそれぞれ復帰し、投打で厚みが増した。

先発投手の一角を担う左腕阿部は「左打者への内角も怖くない」と、厳しいコースを突く制球力が持ち味。今季公式戦では4試合に登板し、13回を投げて失点2、自責点0と安定感がある。

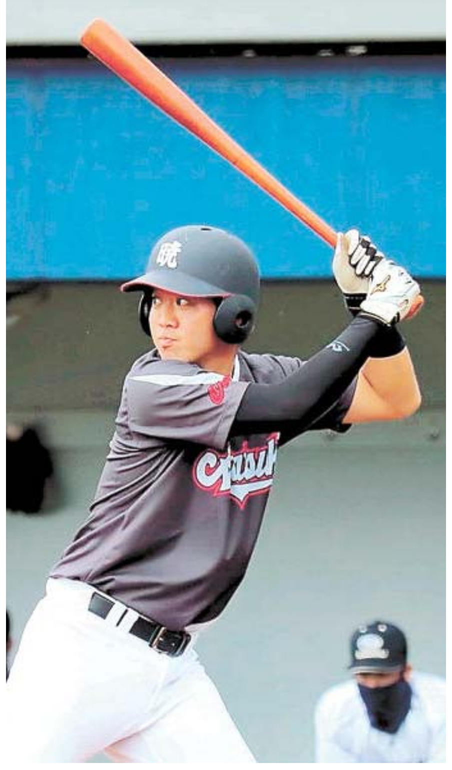
入社2年目の山田は今季、不動の4番として存在感を放つ。公式戦10試合で34打数12安打、打率3割5分3厘と結果を出している。「負けたら自分の責任という気持ちでいる。チームを背負う打撃をしたい」と決意を語る。

チームが目指す野球は豊富な投手陣を中心に、守備から攻撃につなげるスタイルだ。先発投手は阿部の他にも26回⅓を投げ防御率1・71の上原進、三振の奪える手塚周、山本龍之介ら層が厚い。

中でも山本はプロの視線を集める184㌢の右腕で、最速152㌔の直球に多彩な変化球もある。「昨年に比べ、自分もチームも仕上がってきている。自信をもって戦いたい」と気合も十分だ。

打線は3番に高卒3年目の葭葉（よしば）幸二郎が入り、大卒ルーキー小林亮介（上武大出身）も長距離砲として存在感を放つなど、若手の活躍が目覚ましい。

昨年の第2代表決定戦では日本製鉄鹿島（茨城・鹿嶋市）に延長で競り負け、本戦切符を逃している。冨村優希監督は「圧倒的に勝って、東京ドームに乗り込みたい」と自信をみなぎらせる。



粘り強さが特徴の太田暁工業。初戦突破を目指す

太田暁工業

打撃が持ち味 初戦突破狙う

太田暁工業硬式野球クラブは、前身のアゼリア館林硬式野球クラブ時代を含めて3度目の出場。2020年から暁工業の支援を受け戦力の拡充が図られた。井上裕貴監督は「実業団相手にも臆せず食らい付いていけば、勝つチャンスはある」と初戦突破を目指す。

持ち味は打力。1次予選で首位打者賞に輝いた野元仁や、川島一将の打撃に期待がかかる。県内予選の決勝でスバルを相手に一時は同点に追い付き、終盤にも1点を返した粘り強さもある。

Dステ・沢が初優勝

FRJ第9レース

フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ（FRJ）第7〜9レースが27日までに、静岡・富士スピードウェイで行われ、スポット参戦したDステーション・レーシングの沢龍之介が第9レースで初優勝を飾った。

沢はFRJデビュー戦となった第7レースで2位に入り、初の表彰台に上った。第8レースはトップチェッカーを受けたが、レース中の接触ペナルティーにより10位降格となった。

Dステーションは今回がFRJ初参戦。ドライバーは公募し、144人の中から19歳の沢を選出した。（田中暁）

FRJ初参戦で1勝を挙げたDステーション・レーシングの沢

Dステは12位

ル・マンバーチャルシリーズ第1戦

オンライン上でレースを繰り広げる「ル・マンバーチャルシリーズ」の第1戦が24〜25日にイタリア・モンツァを舞台に行われ、LMGTEクラスのDステーション・レーシング（野島俊哉、冨林勇佑、ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ）は12位だった。

レースはシミュレーターで行い、欧米の各コースを巡る。プロのレーシングドライバーとeスポーツドライバーの混合編成で、今季から全5戦のシリーズ化した。

グリフィン中村が6位

群馬CSC Jプロツアー

全日本実業団自転車競技連盟（JBCF）の群馬CSCロードレース9月大会が24〜26日にみなかみ町の群馬サイクルスポーツセンターで開かれ、最上位のJプロツアー（JPT）で第2日に中村龍吉（群馬グリフィン）が6位に入った。

アマチュアカテゴリーでは、同日のE2で鬼形卓弥（COW GUMMA）が優勝。最終日のE3―1組で現役復帰した渡辺将大と唐沢一瑠の群馬グリフィンエリート勢がワンツー。E3―2組は重田倫一郎（作新学院大、高崎工高出身）が制した。

【第2日】▽JPT（72㌔）⑥中村龍吉（群馬グリフィン）1時間43分51秒▽E2（60㌔）①鬼形卓弥（COW GUMMA）1時間33分37秒▽E3（42㌔）④重田倫一郎（作新学院大）1時間3分2秒

【第3日】▽E3―1組（42㌔）①渡辺将大（群馬グリフィンエリート）1時間6分5秒②唐沢一瑠（同）1時間6分5秒▽E3―2組（42㌔）①重田倫一郎（作新学院大）1時間5分46秒▽Y（ユース、42㌔）⑤松島煌和（COW GUMMA）1時間7分31秒

大谷、快挙また持ち越し

大リーグ

ブルワーズが3季ぶり地区V

【アナハイム共同】米大リーグは26日、各地で行われ、エンゼルスの大谷はアナハイムでのマリナーズ戦に「2番・投手」で出場し、7回を1本塁打を含む5安打1失点、10三振1死球で勝敗は付かず、10勝目を逃した。1918年のベーブ・ルース以来となる「2桁勝利、2桁本塁打」の快挙は達成できなかった。

今季中に再び登板するかは未定で、今回と同じ中6日で投げれば10月3日（日本時間同4日）のシーズン最終戦となる。

打者では3打数1安打で本塁打は5試合連続で出なかった。45本塁打はリーグトップと1本差の3位で変わらなかった。チームは1―5で敗れた。

パイレーツの筒香はフィリーズ戦に2番でフル出場し、5打数1安打2打点。守備は右翼から一塁に回った。チームは6―0で勝ち、連敗を3で止めた。

ブルワーズは3季ぶりの地区優勝を決めた。

◇大リーグ日本選手成績（26日）

【野　手】	打数	安打	打点	本塁	今季通算 打率	点	本
大谷　翔平	3	1	0	0	.258	98	45
筒香　嘉智	5	1	2	0	.223	31	8

【投　手】	回数	安打	失点	勝	今季通算 敗	S	防御率
大谷　翔平	7	5	1	9	2	0	3.18

（注）Sはセーブ

マリナーズ戦の6回、トロを中飛に打ち取り、雄たけびを上げるエンゼルス・大谷＝アナハイム（共同）

自分の責任

大谷の話　最後の本塁打以外はよく粘れていた。（本塁打は）打たれる球を打たれたなという感じ。最後追い付かれるのも自分の責任。いい形でホーム（最終戦）を締めくくりたかった。

▽ア・リーグ
ロイヤルズ　2―1　タイガース
レンジャーズ　7―4　オリオールズ
ホワイトソックス　5―2　インディアンス
ブルージェイズ　5―2　ツインズ
アスレチックス　4―3　アストロズ
マリナーズ　5―1　エンゼルス
ヤンキース　6―3　レッドソックス
▽ナ・リーグ
パイレーツ　6―0　フィリーズ
レッズ　9―2　ナショナルズ
ブルワーズ　8―4　メッツ
カージナルス　4―2　カブス
ジャイアンツ　6―2　ロッキーズ
ブレーブス　4―3　パドレス
ドジャース　3―0　ダイヤモンドバックス
▽交流戦
レイズ　3―2　マーリンズ

納谷樹（桐生）V

全日本剣道県予選

剣道の第69回全日本選手権県予選が前橋市のALSOKぐんま武道館で開かれ、納谷樹（たつき）（桐生）が優勝、11月3日に東京・日本武道館で行われる全日本選手権初出場を決めた。

▽準々決勝
須藤　直則（安中碓氷）　コ―　清水　大輔（桐生）
納谷　樹（桐生）　ツメ―　滝本　航大（前橋）
黒沢　哲也（藤岡多野）　コ―　納谷　厚司（桐生）
堀越　光朗（高崎）　メ―　建石　光大（前橋）
▽準決勝
納谷　樹　メ―　須藤　直則
黒沢　哲也　メ―　堀越　光朗
▽決勝
納谷　樹　メ―　黒沢　哲也
※優勝者は全日本選手権へ。

全日本剣道選手権県予選の入賞者